

日 時：平成 13 年 8 月 29 日(水) 10:15～13:00

場 所：弘済会館

出席者：主査 岡村

部会委員（順不同） 町田，渡辺，土岐，岩楯，坂本，前川，仲村，金谷，平岡，伴，
青柳，金津，当麻，大友，遠藤（達）

RCWG 委員（順不同） 島，睦好，丹羽，志水，安田，宮岸，高尾，福本（幸），堀江，
山田，橋本，小倉，松村，松井，松尾，宮川

地震荷重 WG（順不同） 中村，梶田，佐藤，石川，窪，河井，末広

オブザーバー 福本（彦），松本

議事概要：

1．原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針（案）とマニュアル（案）について

原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針（案）について，前回審議からの変更点について説明がなされた．引き続き，マニュアル（案）ならびに地盤のモデル化の検討結果についての報告があった．これらに関して，以下のような質疑応答，コメントが出された．

- ・ 構造物係数の設定において，構造物の重要度と地震動のレベルの関係をどのように考慮したのか，との質問があった．これに対して，原子力設備では，地震動レベルと構造物の重要度が一対一の対応関係になっているため，構造物係数を 1.0 に決めたとの回答があった．
- ・ コンクリート，鉄筋の物性は中央値を採用するのか，という質問があった．それに対して照査項目に対して不利に働くことを想定して特性値を採用した，との回答があった．
- ・ 層間変形角の算定方法の適用範囲について質問があった．それに対して，土被りによる軸力比が 0.1 よりも大きくなる場合を除外しているという回答があった．
- ・ 非線形応答解析に用いる地盤のモデルについては，適用性が確認されたモデルについて，モデル化の配慮事項がマニュアルに具体的に記載されていればよい，とのコメントがあった．
- ・ 地盤物性のばらつきと構造解析係数との関連性について質問があった．これに対して，解析手法に含まれる精度・不確定性や応答値に影響する物性のばらつきを勘案して，構造解析係数を 1.2 にしているとの回答があった．
- ・ 曲げとせん断の照査が同時に行えるのか，との質問があった．これに対して，せん断破壊の不確実性やせん断破壊の照査をひずみで実施することが困難なことを勘案して，安全側になるように独立に検討することになっているとの回答があった．
- ・ 非線形解析とせん断耐力の精度のバランスについて質問があった．それに対して，せん断耐力評価式については合理化する余地があると考えられるが，今回は検討していないため，安全側と考えられるコンクリート標準示方書などを参考に，分布荷重下での部材せん断力分布の特性を考慮した実験式とディーブピーム式を併用する方法を採用しているという回答があった．

- ・動的応答解析結果に及ぼすレーレー減衰のパラメータ設定の影響をどのように評価するのかとの質問があった。それに対して、影響があることを認識しているものの、数値解析法に起因した係数は工学的に判断して設定されるものであると考えている、との回答があった。
- ・今回の調査・研究成果については、出来るだけ公の場に公表するように配慮して欲しいという要望が出された。

2. その他

- ・これまでに審議された内容を反映して、「原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・同マニュアル」としてとりまとめ、年度内を目途に講習会を実施する。

以 上